

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フランス

ファイセック

発行

FICEC

ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2013年4月号(隔月刊) 第125号

富士見市役所で外国人生活相談

ふじみの国際交流センターの業務として実施

ふじみの国際交流センターでは、今年4月1日から、埼玉県富士見市役所において、「外国人のための生活相談」業務を行うことになりました。外国籍の方々には、日本で生活するうえで、さまざまな困難を抱えている場合が少なくありません。問題が大きくなる前に、ぜひ相談においでいただきよう、ご存知の外国人の方々にもお伝えください。



外国人生活相談

ふじみしやくしょ かいだい そうだんしつ
富士見市役所2階 第3相談室

すいようび

水曜日 9:00~12:00

住所：富士見市大字鶴馬 1800-1

☎049-251-2711

むりょう
無料

- Foreign resident advisory services
 - Wednesday 9:00-12:00 **Free**
 - Place: Fujimi City Office 2nd Floor Consultation Room No.3

- 外国人生活咨询 **免费**
 - 毎星期三 9:00-12:00
 - 地址: 富士見市役所2楼第三咨询室

- Foreign resident advisory services
 - Miércoles 9:00-12:00
 - Lugar: Fujimi City Office 2nd Floor Consultation Room No.3 **Walang bayad**

- 외국인생활상담 **무료**
 - 매주수요일 9:00-12:00
 - 주소: 후지미시 관공서 2층 제3상담실

- Consulta para residentes extranjeros, sobre problemas de la vida diaria
 - Miércoles 9:00-12:00
 - Lugar: Piso 2 de la municipalidad de Fujimi Sala de consulta 3 **Grátis**

- Consulta De Vida Cotidiana Para Estrangeiro **Grátis**
 - Quarta-feira 9:00-12:00
 - Local: Prefeitura de Fujimi-shi(2 andar) Consulta. Sala :3

「埼玉で暮らそう」(7カ国語版) 外国人生活ガイドDVDが完成しました

埼玉県国際課から業務委託を受けた「外国人のための生活ガイド」のDVDとリーフレットの作成が終わり、2月に無事納品することが出来ました。

この仕事を受けた当初は、何から始めたらいいのかさえ分かりませんでした。しかも、7か国語で作る予定です。FICECの会員の中に、映像作成の仕事をしておられる方を見つけて、まずその方に手ほどきを受けました。そのお蔭で、DVD作成の過程や、シナリオの書き方などが分かり、制作過程をイメージすることが出来るようになりました。

作成にあたる上では、次のことを心がけました。

- ① FICECは今まで、多くの外国籍の方々に支援してきました。今では、私たちの活動の手伝いをしている方も沢山おられます。出来るだけたくさん外国籍の方々に出演してもらって作ること。
- ② FICECのスタッフ全員の協働の仕事として残したい。
- ③ ナレーションは、その国の母語を話す人達にお願いしたい。
- ④ 日ごろ私たちの活動を応援してくださっている地域の自治体に協力いただくこと。またこの地域の環境の良さも取り入れる。

その結果、ふじみ野市役所、埼玉県警と東入間警察署、あおばだい診療所、ふじみ野市立東原小

学校の協力をいただきました。

また個人では、16か国40人の外国籍の方々の協力を得ることが出来ました。これに日本人のスタッフが加わると、60名を超える出演者数となりました。

遠くは、大阪から翻訳に参加してくれたり、川崎市や葛飾区から撮影やナレーションの収録のためふじみ野市まで来てくれたりした外国籍の仲間もいます。

和気あいあいの撮影を支えてくださったのは、日本工業大学の二人の先生方と、横浜美術大学の先生です。石原次郎先生、糸野文洋先生そして佐藤英里子先生の協力がなければ、このDVDは出来ませんでした。すべての場面の撮影後は、大学の研究室にこもり、長時間にわたり映像と7言語に格闘してくださった石原先生や糸野先生、鋭い視点で撮影現場で指示を出したり、得意な音楽やイラストで映像を楽しいものにしたりしてくださった佐藤先生に出会わなければ、こんなに良い映像にならなかったと思います。三人の先生方本当にご協力ありがとうございました。

このDVDやリーフレットが、外国の方々が、埼玉に住み始める時の良い手助けになることを願っています。

(文責 山畑 博子)

埼玉県国際課のホームページで、動画を見ることができます。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/liveinsaitama.html>



<ふじみの国際交流センターのスタッフもいろいろ協力しながらDVDが完成しました>

外国人のための防災ガイドブック 大学生の協力で7か国語版が完成

東日本大震災時における外国人の状況についての検証を通じ、以下の課題が浮かび上がりました。

- (1) 地域とのつながりが薄いため、災害弱者になりやすい。
- (2) 災害時に提供される情報が理解できない。
- (3) 地震等についての防災知識が乏しい。

ふじみの国際交流センター(FICEC)は埼玉県「災害時外国人支援体制づくり協議会」の一員として、上記(3)の解決のために7か国語防災ガイドブック作成を担当することとなりました。

「災害時には“自助・共助・公助”の協働が欠かせないということを、外国人にわかりやすく伝えよう。既存の防災ガイドブックとは違う、FICECだから作れるガイドブックを作成しよう。」そんな気持ちでプロジェクトチームが作られ、特に下記の点に力を入れて作成をしました。

①外国人のためのガイドブックを作る

FICECの外国人スタッフに最初からプロジェクトに加わってもらい、「地震を知らない外国人に伝えるべきことは何か」をそれぞれ提案してもらいました。日本語原稿完成後には、翻訳にも協力してもらいました。

②“現実を知る”“実際に体験する”から始める

メディアからの情報で、ある程度のことは知っているものの、“本当はどうか”を知る必要があると考えました。そこで最初に、東日本大

震災時に宮城県に在住し、その後も支援活動を続けているFICECの理事より、実際に現場にいて感じたことや、被災直後の様子、必要な支援などを聞きました。

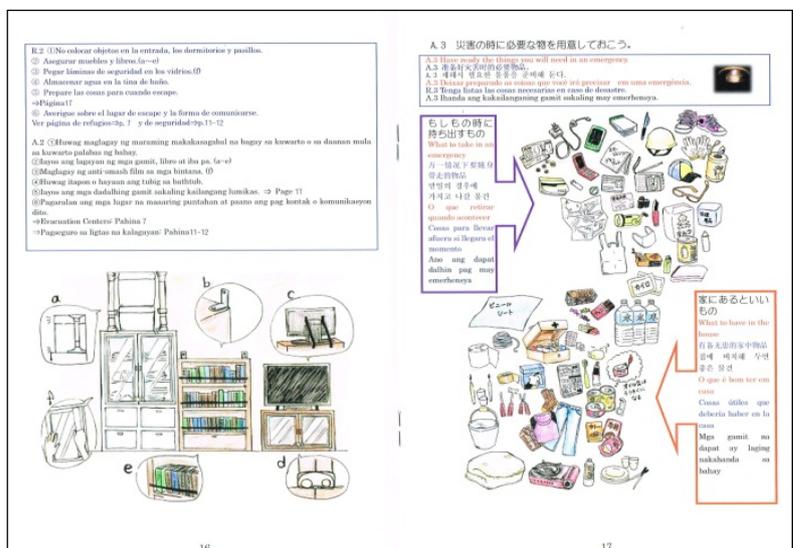
また、“公助”がどうなっているのかを確認するために行政を訪問し、防災担当の方より行政における防災対策についてのお話を伺いました。同時に埼玉県内の防災訓練に参加し、その経験を原稿作成に反映させました。

③これまでにないガイドブックを作る

インターンシップの埼玉大学の学生さんたちや、国際子どもクラブにボランティアとして参加していた学生さん達にプロジェクトチームの一員となってもらい、日本語原稿作成の段階からご協力いただきました。打ち合わせでは「やさしい日本語」で四苦八苦し、何度も何度も修正を重ねて日本語原稿を完成させました。イラストはすべて学生さんの手書きのものとなっています。

埼玉県が実施している外国人モニターアンケートによると、東日本大震災でボランティアをした人は約1割(11.6%)でしたが、今後、ボランティアをしたい人は約9割(88.4%)という結果がでています。

この「7ヶ国語防災ガイドブック」を手にとった外国人が、防災に対する意識を高め、いざという時には地域の助け合いの為に力を発揮してくれたらと願っています。(文責 上島 直美)



結婚狂想曲

はらはらしてしまう異性関係

藤林 美穂

外国人の相談を受けるときに、なんとなく気になるのが年齢です。女性だったら30代半ばより若い人だと「むむ、要注意」と心のどこかで考えてしまいます。若者差別になってはいけないのですが、この年代より下の方はビザのためとはいえ、はらはらするような突拍子もない動き方をする人の割合が高いような気がします。女性だったら、と言いましたが、男性は……女性よりもはらはらの度合いが高くて、40歳くらいまでは安定しない感じがします。

そして、そのはらはらする行動、というのは特に異性関係に現れてくるのです。以前相談を受けた人で、20歳そこそこのすごくハンサムな若者がいたのですが、その人はビザが不安定なために、安定したビザのある女性（あるいは日本人女性）を片端から口説いていて、私に相談しにきたときにはすでに二人の女性に子どもを産ませています。でもどちらとも正式には結婚していない。「どうしよう」と聞かれたので、「どちらの人と本気で結婚するのか、自分で考えてから出直してきなさい」と申し渡したところ、連絡が途絶えてしまいました。ビザのために手当たり次第に相手を探して結婚したはいいが、長続きせず破たんして次の相手を探す、ということを繰り返している人も多いのです。

何も外国人の若者が無責任でふらふらして異性とつきあってばかりいる、ということをお願いわけではありません。ビザが婚姻関係によって取得できる、しかも学歴もお金もコネもない人はほぼそれにたよるしかビザをとる道筋がない、という現在の

入管法のルールに、多くの人が翻弄されている、ということを言いたいのです。

日本人でも外国人でも、今住んでいる場所で仕事があり、それなりに暮らせているのなら、その状態をキープしたい、と思うのが人情ではないでしょうか。しかし、外国人はビザがなければそれかかないません。今の状態をキープする、そのために限られたオプション、つまりビザのための結婚という手段をとってしまう人が出てくるのは、しかたないことなのかもしれません。

私のお客さんの中でも、40代・50代の女性たちは酸いも甘いもかみわけて、上記のようなはらはらする状態はどうに卒業しているように見えます。逆に言えば永住や定住という安定したビザがとれた人たちだから、今落ち着いて日本で暮らせている、ということなのですが……。彼女たちの中には、愛するパートナーと一緒に暮らしているけれど、結婚はもうこりごりだからしない、という人もいます。



● 筆者紹介

行政書士(ライフ行政書士事務所)。NGOで働いたり、フィリピン人支援団体にボランティアしたりした後、行政書士開業。毎日いろいろな国から来たいろいろな人の話を聞いて、「在日外国人」の多様性に、びっくりすることの連続です。

外国人と日本人の架け橋として

山崎友理

春が嫌いになりそうでした。何故なら、また花粉の季節がやって来たからです。この季節になると、体調が崩れて、何もやる気が出ないからです。日本に来て、色々な困難を乗り越えてきましたが、唯一乗り越えられない事は毎年訪れる「花粉」です。花粉も日本文化の一つでしょうか？

日本にいる年数は台湾より長くなりました！私を来日以来よく知っている方は、私の日本語を「アグネスチャン程度で止まっている。」と言っています。悲しいような、嬉しいような？複雑な気持ちです。

自分なりに頑張って、日本にいる外国人の支援

活動を行っていることは正しい選択だったと思います。

また、活動の中で気付く事が増え、日本の行政制度についての不備を感じました。どのように行政と連携して、外国人のサポートをして行けばいいのか、考えています。日本のルールや文化、習慣を外国人にも知ってもらいたい。自分にとって、厳しい課題、乗り越えられるでしょうか！？

でも弱気ではられない、これからもくじげずに、少しずつ目標に向かって、多文化共生の理想社会に近づくように、頑張りたいと思います。

見送りの三振より 空振りの三振

パート II

石井 ナナエ

食事のあと化粧直しをするのが私の習慣になっている。化粧直しといっても、お白粉を叩き口紅を引くぐらいなのだが、手鏡に映った顔に、自覚している以上にたくさんの深いシワがあるのに愕然としている。そんな私の様子を見て娘たちは、「お母さん、なんとかすれば」とお説教する。すかさず「私は顔を売り物にしていないの」と言い返す。すると、「じゃあ、何を売り物にしているの」と聞いてくる。そう言われると返す言葉がない。

しいて言えば、我慢強く、言いにくいことでも正しいと思うことは、はっきり言うことかしら。

昨日も、定住資格のあるフィリピンの若者が、すごい勢いでセンターに飛び込んできた。

「8年前からオーバーステイのフィリピン女性と暮らしている。1歳2歳4歳6歳の子供がいるが、日本国籍にしてくれないというので、4人とも出生届を出していない。内縁の妻には在留許可が下りない。日本はなんでこんなに私たちをいじめめるのか」と怒っている。離婚もしないうちに2人目の女性に子供をませた事など、何の反省もしていない。

日本は母体主義で、子供は母親の国籍になると、早く正妻と離婚して、4人の子供の母親との

結婚手続きをすること、内妻はオーバーステイなのだから、フィリピンに帰らざるを得ないこと、子供たちには国籍がないのだから、早く大使館に届けること、そうしないと母親と一緒にフィリピンに帰るためのパスポートが取れないこと、パスポートが取れるまで、日本にいる彼の両親に子供の面倒を見てもらえるか頼んでみることなどをアドバイスした。

「上の子はもうすぐ小学校へ行く年齢なのよ。こんなふうになったのは日本の制度が悪いのではなくて、何の手続もしないでズルズル生活してきたあなたが悪いの。悪口を言うのでなくて、申し訳ないという気持ちで、必死に働いて、離婚の裁判やパスポートを取るためのお金を用意すること。奥さんは法律では5年は帰れないけど、4人の小さい子どもがいるので早めに再入国できるように、毎年法務大臣に手紙を書きましょう」と、ゆっくり、わかりやすく説明した。最初は怒りに満ちていた彼も、話をするうちに落ち着きを取り戻し、自分が何をすべきか納得して帰っていった。これからも、言いにくいこともはっきり言って、外国ルーツの人たちに日本の制度や規則を伝えていこうと思った。

第34回青少年を健全に育てるための市民大会 パキスタン出身のサタール・イクラさんが発表

平成25年2月2日(土)に行われた「第34回青少年を健全に育てるための市民大会 少年の主張 in ふじみ野」で、ふじみの国際交流センターの国際子どもクラブに長年通っていたパキスタン出身のサタール・イクラさんが発表を行いました。文化の違いを乗り越えて、日本で前向きに暮らす、感動的な発表となりました。

日本に暮らして

埼玉県立福岡高等学校3年 サタール・イクラ

みなさん、こんにちは。サタール・イクラです。私が日本に来たのは、小学校1年生のときでした。はじめ、私は学校に行っても知っている子がなくて、教室に入ることができませんでした。友達もなく、寂しく、心細く、大きな不安に襲われていました。そんな私は、別室で「ふじみの国際交流センター」から毎日来てくださるボランティアさんたちに、日本語を教えていただきました。私が今、日本語を話すことができ、作文も書けるのは、その方々のおかげです。

日本での生活を振り返るといろいろなことがありました。私は外国人だということで、差別を受けたこともありました。また、友達もなかなかできませんでした。中でも私が一番苦労したのは、宗教のおきてでした。私は両親の信仰で、イスラム教に入っています。そのため、毎年ラマダーン月に一か月間の断食をしています。学校生活で一番大変だったのは、給食でした。イスラム教では豚肉を食べてはいけません。そのため給食は、食べられるものがほとんどなかったこともありました。

中学生になると、大事な友達ことができました。しかし引越してその友達を失い、また一人ぼっちになり、私は寂しさに耐えられませんでした。両親に無理を言って、私はパキスタンに帰りました。私はそこで改めて自分の宗教のこと、母国のことを学びました。そして私は、もう一度日本に行って頑張りたいと願い、日本に戻ってきました。

「ふじみの国際交流センター」の方々が、中学校を卒業していなかった私に、「中学卒業認定試験」に合格させるための特訓をしてくださいました。そのおかげで、私は無事認定試験に合格できました。そして、高校受験です。中学の学習が半分もできていない私には、4か月しか時間がありませんでした。それでも、ボランティアさんのおかげで、私は入試という高い壁を乗り越え、今の福岡高校に入学できたのでした。

高校に入学した私は、また不安でいっぱいでしたが、下ばかりを向いてはいけなないと思ひ、自分からクラスメートに声をかけようと頑張りました。私には今、とても大切な仲間がたくさんできました。その仲間たちのおかげで、これまであまりよい思い出のなかった学校という場で、笑ったり、泣いたり、大切な思い出がたくさんできました。

私が日本で暮らして学んだことは、人と人とは「信頼関係で繋がる」ということです。それは、国が違っても、宗教が違っても、また人種が違っても可能だということです。そのすばらしさを私は身をもって体験しました。これは何にも変えられない大事な宝だと思っています。給食がしっかり食べられない私に、「大丈夫？」と言ってくれた子、外国人の私に「頑張って」とエールを送ってくれた子たちがいました。確かに幼い頃は、つらいことがたくさんありました。けれど、ほんの小さな一言でも人は救われます。だから私は、その宝を生きていく上で、大切にしたいと思っています。この貴重な体験を大切に、次は多くの人々のために私が何かしらの恩返しをしたいと思っています。ここまでの日本語を教えてくださいましたボランティアさんたちには、言葉や勉強を教えてくださいただけだけでなく、大きな心の支えにもなっていました。人はたくさんの人に支えられ、お互いに支えあって生きているのだと実感しています。テレビを見て、日本のあちこちで起きている災害を見聞きして「絆」の大切さを、改めてかみしめています。

これまで私を支え、助けてくださった多くの人たちに心から「ありがとう」を伝えたい気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



上福岡駅前で「国際子どもクラブ」を開催 外国の子ども達も熱心に勉強

平成24年4月から9月まではうれし野まちづくり会館で、10月からは上福岡駅前の市民活動支援センターをお借りして小・中学生の学習支援をしています。現在国際子どもクラブには、15人の子ども達が勉強に通ってきます。その内6人の子ども達は、ほぼ毎回欠かさず通い熱心に勉強していました。

学校の宿題や、日本語を教えるだけではなく、学校での悩みの相談にのったり、病院の付き添いをしたり、縄跳びの練習に付き合ったりと、指導員も充実した一年を送ることができました。

また、年2回のお楽しみ会には、飛び入り参加の

留学生や中学生のボランティアも加わり、和気あいの楽しい時間を過ごすことができました。

昨年度は、高校進学の子どもがいなかったのですが、今年度は進学予定の子どもがいます。指導員も心を引き締めて、進学できるように応援するつもりです。皆さん、時々勉強の様子を見に来てください。

(文責 山畑 博子)



活動報告

2013/2/3 6市1町南西部NPO交流まつり 4携帯電話通訳者会議 9理事会 14鶴ヶ丘小学校国際理解講座 12.26スタッフ会議 14.28パソコン教室 中国語教室 英語教室 日本語教室 国際子どもクラブ
2013/3/3三芳町協働まちづくりネットワーク 4.29携帯電話通訳者会議 12.26スタッフ会議 14.28パソコン教室 23国際子どもクラブ進級卒業お祝い会 30理事会 中国語教室 英語教室 日本語教室 国際子どもクラブ

本誌に同封したアンケート返信のお願い

これまで、ふじみの国際交流センターの会員として、活動を支えていただいていることに心から感謝しています。皆様の率直なご意見、ご感想を今後の活動に反映し、より理解していただき、多くの人の力を借りながら継続出来るNPOにするために、開設以来初めて会員を対象としたアンケート調査をすることになり

ました。

お忙しいところ恐縮ですが、同封のアンケートについて、下記のFAXか、インターネットでご回答いただけたら幸いです。よろしく願いいたします。

FAX:049-256-4291

インターネットでの回答:<http://p.tl/~p-7>

センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

●2011年4月～(50音順・敬称略)

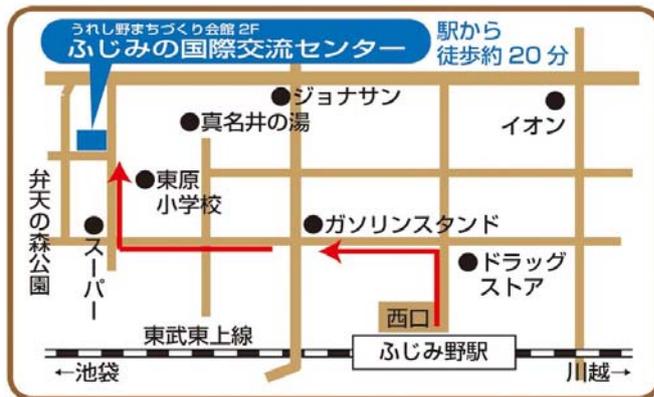
イオン(株)大井店、国際ソロプチミスト埼玉、立麻医院、東入間地区遊技業防犯協力会、阿澄康子、穴沢エミリン、新井順子、荒田光男、石井ナナエ、市川孝治、岩田仁、上島直美、太田原裕、大西文行、葛西敦子、加藤久美子、金子忠弘、神田順子、木場ひろみ、駒形一夫、権田貴久子、白砂正明、菅山修二、鈴木讓二、関ニーランティ、多ヶ谷實、武田和子、立麻肇子、田中つや子、寺村璧如、戸塚咸子、内藤忍、中嶋恵津子、中村禎作、沼田伊玖俊、野沢弘子、萩原千代子、長谷川正江、浜本由里子、百瀬紀子、森和也、森田信子、山畑博子

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
センターをご紹介ください。



サービス料金表

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター(製版代) 1枚100円 印刷代1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金
講師派遣	国際理解教育	3,000円+交通費
	外国料理教室	5,000円(材料費別途)
	語学教室	内容・予算に応じて相談
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、ホームページの制作	1枚5,000円
	日本語によるチラシデザイン(A4判)	
翻訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語	婚姻関係、ビザ申請、履歴書 A4判1頁、40字・30行 1枚1,000円
	その他の文書	A4判1頁、40字・20行 1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語	半日5,000円より+交通費

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-15-10

うれし野まちづくり会館2階

Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。